

通いの場応援隊 ～取組みの状況～

桑名市北部東地域包括支援センター圏域担当
生活支援コーディネーター(第2層)
桑名市社会福祉協議会長島支所:小柳由行

「通いの場応援隊」とは

日常生活圏域内

ボランティアが
マイカーで
移動支援！



通所型サービスB

- ・シルバーサロン(まめじゃ会)
- ・健康ケア教室

事業対象者

要支援1・2
チェックリスト該当者

事業対象者を送迎すると、片道につき
1スタンプ(100ポイント)がもらえます！

『介護支援ボランティア制度』

生活支援コーディネーターとしての取組み

～『通いの場応援隊』の取組みから～

基本的役割

①地域のニーズと資源の状況の見える化、問題提起

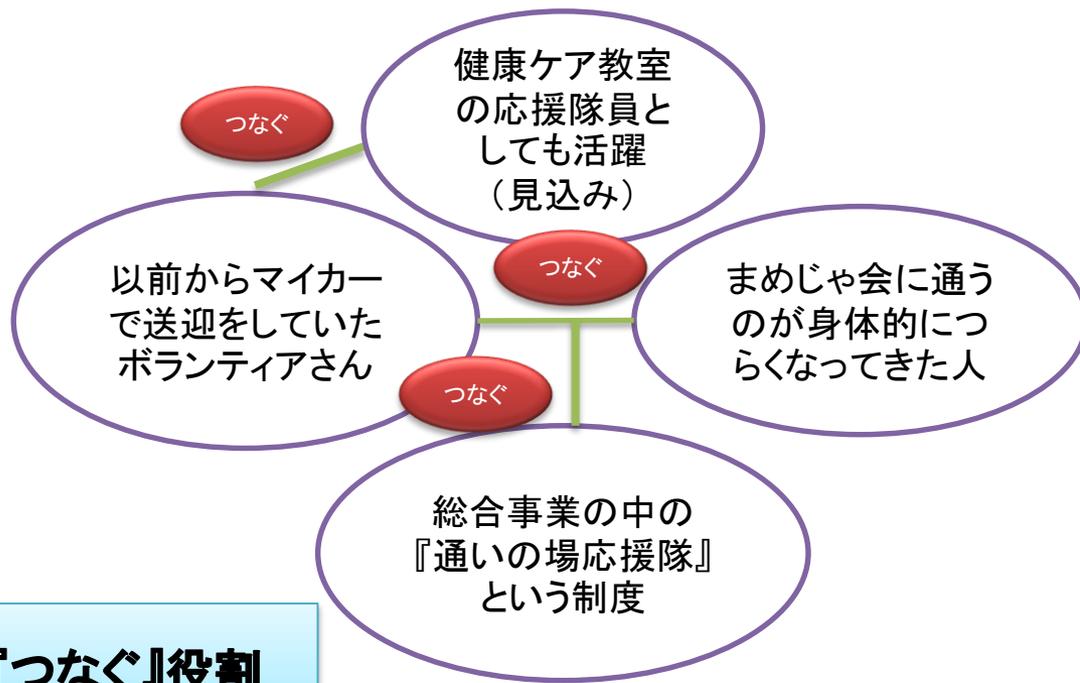
②地縁組織等多様な主体への協力依頼等の働きかけ

③関係者のネットワーク化

④目指す地域の姿・方針の共有、意識の統一

⑤生活支援の担い手の養成やサービスの開発（担い手を養成し、組織化し、担い手を支援活動につなげる機能）

⑥ニーズとサービスのマッチング



『つなぐ』役割

- ・地域介護課と「通いの場応援隊」実施に向けた働きかけ
- ・サポーターの見える化、創出
- ・制度実施に向けた必要事項の調整（北部東包括、地域介護課）
- ・制度実施に向けた担い手との丁寧な打ち合わせや協議
- ・地域全体（長島）に対するニーズの見える化、問題提起
- ・応援隊利用のニーズと担い手とのマッチング（第3層的）

現在サービス実施中(4箇所)

①姫御前団地まめじゃ会

※毎月第2金曜日に開催

事業対象者1名、要支援の方1名がサービスを利用中。ボランティアは主にまめじゃ会の男性スタッフ2名が運転。



②大倉まめじゃ会

※毎月第3木曜日に開催

事業対象者1名、要支援の方2名がサービス利用中。ボランティアは主にまめじゃ会の男性スタッフ2名が運転。



③長島福祉健康センター 健康ケア教室

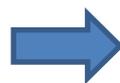
※毎週開催

事業対象者2名、要支援の方1名がサービス利用中。健康ケア教室の運営ボランティア1名と教室参加者1名が運転(2人とも女性)。



④高座・中川・西川まめじゃ会

※不定期に開催(年6回程)



本日(11/25)から運用開始。事業対象者1名を女性ボランティアが送迎。

サービスを利用している方の事例(状況)

Sさん(87歳)

- 一人暮らし
- 要支援2
- 日常生活自立度 A2
- 認知高齢者 II I
- 杖、手すり利用
- 動くと腰痛
- 既往歴
 - ※右変形性股関節症
(人工関節)
 - ※高血圧、狭心症
 - ※腎不全

サービス利用前の状況

- 大倉まめじゃ会設立当初は運営に携わっていた。
- その頃は自転車で、後に徒歩で通うようになる。携わっていた責任と、皆に会える楽しみから毎回通っていた。
- 以前から特に雨天時の歩行にリスク有り。さらに9月に腰痛が悪化し、「いきがい」の継続が危ぶまれる事態に・・・。
- 腰痛が悪化してからは物忘れが増える。



サービス利用後の状況

- 「いきがい」継続の確保
(まめじゃ会の話をするときの笑顔に表れる)
- (認知症状の改善?) → 腰痛悪化が落ち着いてから日が浅いため今後要確認
- 本人の様子は次ページ写真参照

サービスを利用している方の事例(実際の様子①)



サービスを利用している方の事例(実際の様子②)



サービスの開始に至る過程と見えてきた課題・展望

- ・大倉と姫御前は以前からボランティアスタッフによる送迎が行われていた。そこに応援隊の制度を通して、要支援者の移動支援の理解を深めてもらった。
- ・シルバーサロン(まめじゃ会)側には「多くの人に参加してほしい」という思いがある。その思いと、要支援者やチェックリスト該当者の自立・介護予防をマッチングさせて「WinWin」の関係性を構築。
- ・開始に至るまでには、シルバーサロン側に十分理解してもらうための取組みが必要。特に介護支援ボランティア制度との絡みがある(まめじゃ会にはなじみがなかった)ため、代表者への説明会や、他スタッフへの説明に出向く等の取組みを行った。
- ・シルバーサロンや健康ケア教室の「悩み」や「思い」に触れられるアンテナが必要。(すぐには動けなくても、芽が出かけたときに寄り添える体制)
例)まめじゃ会交流研修会にて応援隊を紹介、介護支援ボランティア制度の導入を進め、その芽が本日から運用開始の高座・中川・西川まめじゃ会の運用につながった。
- ・「ボランティアがマイカーで送迎をする(自動車保険等も自前)」という取組みのため、送迎の下地がないシルバーサロンへの働きかけによる実施はハードルが高い。ただ、「利用していた人が来れなくなった」、「近くに行きたいけど来れない人がいる」という個別の情報をシルバーサロンと共有し、解決策を考えていくのが実施に向けた近道のように感じる。